

水辺空間活用（舟運）ワーキング 第1回 議事要旨

1. 日時・場所

平成27年8月5日（水） 16:00～17:30

東京都庁第二本庁舎 31階特別会議室 22

2. 委員一覧

別紙 名簿のとおり

3. 議題

○ワーキングの位置づけについて

○舟運の現状と課題

○意見交換

4. 主な発言要旨

〔清水教授（座長）〕

- ・海外で良い雰囲気のある街だったなと感じる都市は舟運が良いところである。国・都市の底力というものを見せるのに舟運は非常によい分野であると思う。
- ・水辺空間という面で、短期的には舟運を上手く使いこなすという運用の話であり、中長期には舟運を使いながらどうやって水際の空間を変えていくかという議論につながる。オリパラ大会があるため、短期的な議論が中心となるが、意識的にはこういうところまで含めたい。
- ・来年の秋に親委員会が3つのワーキングから出てきた成果を全体の話として取りまとめるというため、特にこのワーキングでは社会実験なども含めて少し早めに動く。

〔篠原准教授〕

- ・日本の観光を次世代に繋げていくためには東京の観光デザインが大変重要。そのためには舟運の面からも観光の奥行きを広げていくことが不可欠。
- ・利用者の目線と事業者の目線の両方をベースに実証実験を経て事業者の皆さま方の自立自走が出来るような環境にしっかり繋げるようなつくりつけが必要。
- ・ちょっとした演出を加えると、最終的に時間が掛かる舟運を楽しんでいただくということに繋がる。如何に民間の方々を巻き込めるかが重要。船の運航だけでなく地域の方々にも演出をして頂くという作りつけも併せて検討することが必要。
- ・事業者側では、50人クラスの船は内部河川での運航は難しい。突き詰めると結局は新造船の必要が出てくる。

〔千代田区〕

- ・皇居のお堀ではボート場等で開放している船着き場もあるが、神田川、日本橋川では一般開放はしていない。
- ・今年3月施行の水辺の条例では、努力目標ではあるが、もう一度川を見直し、川に顔を向けたまちづくりを進めることとしている。

- ・区庁舎前から竹橋周辺までに、日本橋川とお堀に囲まれた中州のようなエリアがある。川をもう少し活かしていきたい。

〔中央区〕

- ・日本橋船着場が非常に賑わっており、大成功している。船着場を区が整備し、地域の人たちが管理運営を行っている。老舗や日本文化があるところに船着場が有るということで奥行きある舟運観光が出来ている。
- ・区域外も含め船着場の利用が二極化しているので、区としては広がりを持たせていくことが課題。観光客にとって行政区域は関係がないので、隣の区との連携にも期待。
- ・特に情報発信の面での改善に非常に期待。

〔港区〕

- ・観光と公共交通の連携を深めていくことが課題と認識。
- ・水質改善の視点も重要。

〔台東区〕

- ・浅草の二天門に防災船着場を整備し、23年度から平常時は水辺ラインの定期便で活用。
- ・舟運が活性化し、浅草への来訪者が川から来て頂けるようになると期待。

〔墨田区〕

- ・定期航路で使われている船着場は隅田川が中心。外の河川と内部河川との連携が必要。
- ・船と、まちの観光資源との連携を考える必要がある。
- ・スカイツリーだけでなく台東区側の浅草も含めて回遊を創出することで地域全体がさらに活性化すると期待。
- ・内部河川の場合には係留についての規制をどう解決するかが課題。

〔江東区〕

- ・内部河川に多く点在する船着場を活用した舟運でまちの賑わいを広げたい。
- ・海上公園の利便性向上の観点から船着場に隣接したコミュニティサイクルのポートを設置し、船と自転車の連携を図りたい。

〔品川区〕

- ・海と川とを結ぶ交通網の整備を期待。
- ・鉄道とのアクセスも今後可能性がある。
- ・棧橋の一般開放についても今後検討を進めていきたい。

〔大田区〕

- ・羽田空港に隣接した天空橋船着場を、国際線と国内線の乗換時間の利用等も含めた活用を期待。

〔江戸川区〕

- ・三方が河川、海の水辺に囲まれており、水辺の観光に着目したまちづくりを展開。他区との連携により舟運の魅力が広がるので、オール東京で展開できればよい。
- ・舟運のみならず、水辺でスポーツを行うカヌーやボート、ドラゴンボートなども積極的に進めている。

〔建設局〕

- ・都内の河川ではプレジャーボートの不法係留が問題になっており、この問題をクリアしないと水辺の環境が取り戻せないという非常に強い課題を抱えている。

〔関東旅客船協会〕

- ・水辺の活性化、舟運の活性化は舟運事業者すべての願い。
- ・街との連携では背後地に何があるのかというところが重要。

〔日本旅行業協会〕

- ・委員会で、船でお勤めのところを廻って、実際に舟運に関する説明を受けたり、意見交換をするなどの協力も可能。
- ・旅行会社の実務担当と意見交換も出来るので舟運についても協力したい。

〔東京湾遊漁船業協同組合〕

- ・屋形船、宴会だけではなく、修学旅行や都内の中高校の社会科見学に積極的に取り組んでいる。
- ・新造船も考えてはいきたいとは思っているが、当面既存の船を使って活性化を図る必要がある。

〔屋形船東京都協同組合〕

- ・駅からどこに棧橋があるのか、棧橋においてどこに駅があるのかという表示など情報発信の充実が重要。

〔東京観光遊漁船協議会〕

- ・舟運と観光サービスをセットにした工夫が必要という指摘は痛感。
- ・海上運送法の一部が改正され、河川では棧橋ごとの許可申請からエリアで許可が取れるようになったので活用していきたい。
- ・自社の船は全て新造船。それぞれの航路の条件や物理的制約に合わせるなど川に合わせた船にせざるを得ないと痛感。

〔事務局〕

- ・今後にあたっては区の皆さんにご協力いただき、連携させていただきたい。

以上